

学校法人 神戸薬科大学

2025 年度事業計画

神戸薬科大学（以下「本学」という）は、2022 年度から 2026 年度の 5 年間ににおける「第 3 期中期計画」を策定しました。2025 年度はその 4 年目となります。

18 歳人口の減少、薬学系志望者の低迷、薬学系大学の増加による競争激化等々の厳しい環境は続いています。本学が今後より一層の発展を図るため、「改革」「変革」及び「ガバナンス強化」の高い意識を持つことが肝要です。2025 年度も引き続き教職協働で組織的な改善を行い、内部質保証システムに基づいた PDCA サイクルを回し、全員が本学の価値向上に努める年とします。

2025 年度事業計画は予算大綱に示した「キャンパス整備の推進」「学生募集及び入試広報の強化」「学内情報基盤整備の推進」を 3 つの重点項目とし、教育環境の整備と優秀な学生の確保に取り組みます。また、昨年度から準備を進めてきた私立学校法の改正に伴う新寄附行為が 4 月 1 日から施行となります。これに伴い、理事会(2024 年 10 月 30 日開催)において決定した基本方針に従って、内部統制システムの整備を進めます。

【教育環境整備事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ア)

- ・ 主体性、行動力、課題発見力、答えのない課題に取り組む力を兼ね備えた人材の育成
- ・ 問題発見能力、思考力、行動力を活用し薬学の未来を牽引する人材の育成
- ・ 基礎から応用までを主体的に考える教育

(イ)

- ・ 思考力育成（課題発見能力、問題解決能力、文理融合型学習）型教育の開発
- ・ 成績下位者及び上位者の教育方策の開発
- ・ 順次性のある体系的なカリキュラムの構築
- ・ 新カリキュラムの検証
- ・ 国家試験合格率向上への取り組み

(目標：ストレート卒業率 90%、ストレート合格率 80%)

- ・ FD 研修の定期的な実施
- ・ 教育方法及び教育の成果等に関する調査及び分析

(ケ)

- ・ 教育 IR のデータ収集（2022 年～）、分析（2024 年～）、活用（2025 年～）

教育活動では、4年目となる「新カリキュラム」の検証と充実に取り組みます。また、3年目の検証結果を踏まえたカリキュラム上の改善策の効果を見極めます。それら教育IRの分析に関して、活動の拠点となる総合教育研究センターの教員による、今後の「ストレート卒業率、薬剤師国家試験ストレート合格率の向上」に向けた「教育方法及び教育の成果等に関する調査と分析」を実施し、その成果を「定期的なFD研修会」を通して、全教員へ共有していきます。また、その結果を活用して、補講などの低学力の学生のための学修支援を実施する予定です。さらに、2024年度から適用されている「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」の検証を進めます。

そして、ICTを駆使したA棟講義室での「電子黒板」「Microsoft365」の活用状況を検証し、その結果を踏まえ他棟の教室への展開についても検討していきます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

標準修業年限内の卒業率 80%

(2024年3月標準修業年限内の卒業率 76.8%)

薬剤師国家試験ストレート合格率 70%

(2024年3月施行第109回薬剤師国家試験ストレート合格率結果 66.3%)

【学生支援事業】

第3期中期計画細目の関連項目

(ウ)

・大学ブランド力の強化

経済面の支援：引き続き、成績優秀者を対象とした「神戸薬科大学奨学生制度」による支援を継続しつつ、家計が急変した学生を対象とした「神戸薬科大学応急援助奨学生制度」の拡充を検討します。これにより、学生が経済的に安心して勉学に取り組める環境を整備します。

健康・精神面の支援：学生相談室や医務室、クラス担任との連携を強化し、健康診断の受診促進やメンタルヘルス疾患の予防、セルフケアに関する情報を積極的に発信し、心身の健康維持を支援します。また、学生支援センター運営委員会で策定した合理的配慮に基づいた障害のある学生への支援の運用を開始します。さらに、孤独感を抱える学生を生むことのないよう、学生同士のつながりを深める行事の企画・実施にも取り組みます。これらの取り組みを通じて、学生が安心して通学し、学業に専念できる「居場所」となる環境づくりに努めます。

キャリア支援：病院志望者へのキャリア支援として、新たに臨床特命教授によるキャリア相談の機会を設けます。企業志望者に対しては、キャリア支援委員会や各研究室と連携し、

上場企業や中堅規模の優良企業の情報を収集し提供していきます。また、これらの情報をイベントやキャリア相談を通じて広く周知し、学生の多様なキャリア形成を支援します。

その他：学生の安心・安全を確保するため、引き続き安否確認システム ANPIC（アンピック）の登録率向上に努めます。また中長期的な学生支援の最適化を図るため、2025年度に実施予定の学生生活実態調査における回答率向上に努め、より多くの学生の現状を的確に把握できる体制を整えます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

2024年度卒業生の進路決定率 100%

内訳：病院・企業・公務員・大学院進学合計で 60%

(2023年度卒業生の5月1日における卒業生の進路決定率 100%

内訳：病院・企業・公務員・大学院進学合計で 39.6%)

安否確認システム ANPIC（アンピック）登録率 90%

(2025年1月末時点 65%)

【研究推進事業】

第3期中期計画細目の関連項目

(ア)

- ・「良い研究が良い教育を生む」の信念のもと、研究支援組織の整備

(ウ)

- ・不正防止システムのチェック機能強化

(ケ)

- ・研究 IR のデータ収集（2023年～）、分析（2025年～）、活用（2026年～）

研究活動において、2024年度をもって全ての採択課題の研究期間が終了した「学長裁量経費に基づく共同研究」については、前回と同様のテーマで再度2025年度から新たな研究課題を一斉に開始します。また、我が国の創薬力向上に貢献するため、創薬に直結した基礎研究による新たなシーズの創製、および創薬に携わる人材の育成を目的として「学長裁量経費に基づく次世代創薬に資する独創的薬学研究」も2024年度途中より新たに開始しています。日本私立学校振興・共済事業団「大学間連携等による共同研究」「学術研究振興資金」を積極的に推進します。日本学術振興会「科学研究費助成事業」や科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業」等、競争的研究費等の獲得拡大を目指すほか、科学技術振興機構「共創の場形成支援プログラム」等に参画します。将来に備え「大型、中型機器の購入に備えた研究充実準備積立金」として購入資金の積立を実施します。中期計画に定める「研究 IR」

(2025年度：研究データ分析)、内閣府が求める「研究データポリシー」「研究インテグリティの確保」、文部科学省が求める「研究不正防止の取り組み」、経済産業省が求める「安全保障輸出管理」に係る対応に引き続き取り組みます。これら多くの取り組みにより、本学の特色ある研究「疾患微小環境の解明に基づくセラノスティクス創薬」を推進していきます。

さらに、2024年度に設置したイノベーションラボの有効活用について、大型の競争的研究費等を獲得した教員による使用のほか、大学ホームページや外部サイトへの情報掲載等を通して、企業等との共同研究における活用を引き続き模索します。

「重要業績評価指標 (Key Performance Indicator)」設定

研究成果に関するプレスリリース件数 10 件以上

(2024 年度研究成果に関するプレスリリース件数 8 件)

※良い研究成果を対象としてプレスリリースすることとしており、その対象基準を 5 年インパクトファクターが 5 以上の雑誌又は Nature Index に採用されている雑誌に掲載されたものとしている。

【法人運営事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ウ)

- ・「学校法人神戸薬科大学寄附行為」の改正
- ・内部監査の充実
- ・大学基準協会及び薬学教育評価機構の第三者評価受審

(オ)

- ・外部資金獲得の強化
- ・適正な予算の作成と執行
- ・計画的な第 2 号基本金引当特定資産、研究充実準備積立金の積立・取崩

法人運営においては、私立学校法改正に伴い、2025 年 4 月 1 日付で施行される新寄附行為に則った法人運営を行い、理事会と評議員会による迅速な決議、対応の遂行を目指します。また、適正な法人運営を目指して、理事長と教職員との面談、並びに、求人企業や寄附団体などの学外ステークホルダーの皆様との意見交換を計画しています。

2024 年度に整備した内部統制システム整備の基本方針に基づき、2025 年 4 月 1 日から内部統制システムの運用を開始します。理事の職務執行、リスク管理、コンプライアンスの管理、監査業務等を行いながら、随時、確認、見直しを行い、改善を図っていきます。

ガバナンス・コードについては、日本私立大学協会改定の「私立大学ガバナンス・コード」<第 2.0 版>が 2025 年 4 月 1 日から適用開始され、そのコードに基づき、点検を行います。

本学の実情を解釈して遵守状況を点検し、その結果をホームページで公表するとともに、日本私立大学協会へ報告します。

2025年度末に学長の任期満了を迎えるにあたり、学校法人神戸薬科大学学長選考規程に基づき、学長選考を実施し、新学長を決定します。2026年度までの第3次中期計画の終盤に向けて進捗状況を確認し、総仕上げを行っていきます。

監査では、「最近監査対象となっていない者及び競争的資金を複数受給している場合は、不正発生のリスクが高まる」との文部科学省ガイドラインを考慮して監査対象を決定していきます。2024年度に受審した「薬学教育評価機構による第三者評価（専門分野別評価）」の結果を受け、改善項目の対応を検討し実施します。

財務面については、引き続き学生生徒等納付金収入の安定的な確保を図るとともに、収入源の多様化を図るため、積極的な外部資金、補助金・寄付金収入の獲得に努めます。支出においてもキャンパス整備の推進に多額の資金投入を行っており、経常経費を含め予算を慎重に審議し、適切かつ効率的な資金投入を行います。キャンパス整備の進捗に合わせ第2号基本金引当特定資産の取崩しを行うとともに、今後の高額な研究用機器の購入に備え、研究充実準備積立金の積立を行います。また、キャンパス整備完了後、既存建物の大規模修繕計画の立案を予定しており、それに合わせた「第2号基本金引当特定資産の積立計画」の検討を行います。職員の労働環境にあっては、勤怠の申請、承認を効率化し、申請書類のペーパーレス化を進めつつ、子育て世代が働きやすい職場環境の充実にも取り組みます。「事務処理の簡素化」「文書・書類のペーパーレス化、電子化」を大きく進め、事務のICT化を一層推進します。

なお、大学改革の一環として事務組織の改編を検討し、2025年4月1日から総務課と企画・広報課の企画部門を統合し「総務企画課」へ、入試課と企画・広報課の広報部門を統合し「入試広報課」へ、学生課とキャリア支援課を統合し「学生支援課」へ改組します。改組後は、合理的かつ効率的な組織運営を行っていきます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

新「学校法人神戸薬科大学寄附行為」に則った法人運営及び内部統制システムの検証

【キャンパス整備事業】

第3次中期計画細目の関連項目

(キ)

- ・SDGsを意識したキャンパス整備の推進
- ・バリアフリー化の推進

(ク)

- ・教育研究活動の高度化を支える情報基盤整備

・近未来型図書館の構築

キャンパス整備事業においては、2025年6月に旧1号館の解体工事が完了すると共に、2025年度末を完成予定とした跡地整備工事に着手します。その整備計画では、昨年度に実施した学生・教職員による「神薬ガーデンデザインワークショップ」で出た意見の取り入れ、旧1号館の一部を再利用することや大阪・関西万博で使用した木材の再利用の検討、そして建物間スロープを車いす単独移動に合致した勾配基準に改修するなど、SDGsの意識とバリアフリー化の推進を見据えた跡地整備を行います。この整備工事完了により、これまでの耐震化に主眼をおいた一連のキャンパス整備が完了することになり、2025年度は教育環境の機能維持を目的とした既存建物の大規模修繕計画の立案に着手します。また、設備関連として、昨年度実施できなかったRI空調設備の更新、G301、G302への電子黒板の設置に加えて、学内情報基盤整備の一環として、情報基盤のさらなる充実を目指し、サーバ機器の冗長化やデータ連携基盤構築、コンピュータ演習室のパソコン・什器の更新、複合機の一元管理、および老朽化したネットワーク配線の更新を実施します。また、学生の個人印刷を有料化し、図書館システムも刷新することで、より効率的で安全な情報環境を提供します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

神戸薬科大学における校舎間の車いす単独移動可能通路の整備率 100%
(2024年度の整備率 57.1%)

【学生募集強化事業】

第3期中期計画細目の関連項目

(カ)

- ・入試制度の継続的な見直し
- ・入試広報の強化
- ・特待生制度の活用並びに検証及び改善
- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定高等学校連携

出願者の大幅な増加を目指し、新方式の入試導入や種別毎の入学定員の変更等の入試制度の抜本的な見直しを行います。2026年度入試は、年内入試が総合型、学校推薦型（指定校制・公募制専願・公募制併願）の計4種、一般選抜も4種（A日程（旧：前期）・B日程（旧：中期）・地域枠・共通テスト利用）と合計8種の多様な入試で、潜在的な志願者の掘り起こしと取り込みを図ります。また、新たな層からの志願者獲得を目指して、外部英語試験や共通テスト併用の入試を検討します。さらに、2021年度入試から始めた「新入生特待生制度」、2022年度入試から始めた「入学金延納制度」を継続し、国公立大志望の受験生の

確保に取り組みます。加えて、受験生の利便性向上や受験機会の拡大を目的に、CBT 方式による入試方法を引き続き検討し、全国の薬学部に先駆けての導入を目指します。

入試広報の強化は、地元兵庫県からの出願が減少した 2024 年度入試の結果を踏まえ、「薬学への誘い」「サイエンスフェア in 兵庫」などの地元の高校生に対する事業に積極的に取り組みます。また、スーパーサイエンスハイスクール指定高等学校（SSH 校）との連携強化を拡大継続していきます。SSH 校とのパイプ強化の核となる事業「薬学への誘い」は、本学での研究の実体験を通じて薬学の奥深さ・幅広さを知ってもらう企画で、2022 年度に参加した高校 2 年生 10 名を追跡調査したところ、最終 4 名が入学者となっており、引き続き拡充していきたいと考えています。加えて、志願者の大半を占める兵庫県や大阪府の高校に対しては、昨年度に引き続き教職協働を実践して重点的に訪問し、薬学出前講義あるいは新教育棟（A 棟）での薬学講義を積極的に実施し、高校低学年から本学の知名度向上を図っていきます。オープンキャンパスは、例年の夏季と秋季に加え、4 月に高校新 2・3 年生向け春季オープンキャンパスを実施します。A 棟を開催拠点として計画しており、高水準の ICT 環境や教育の質、学生生活など本学の魅力を発信していきます。さらに、SNS や学習支援アプリでの宣伝など広告媒体の見直しも行っていきます。

総合型及び学校推薦型選抜による入学増を計画していますが、その反面、年内に進学を決めると合格から入学までの期間に中弛みする傾向があることから、入学前教育の重要性が増しています。本学では、主に年内入試（専願型入試と入学を確約した併願型入試）の合格者を対象に、校内教員による充実した入学前教育を実施しており、高校から大学への円滑な接続を目指します。さらに、入学前教育の取り組みについては、高校生だけでなく、高校や保護者に対しても積極的に宣伝することで志願者増を図ります。

大学院においては、2023 年度末の大学院薬学研究科（修士課程）薬科学専攻の廃止により、大学院におけるリソースを博士課程に集中し、本学独自の薬剤師レジデント制度を利用した「病院研修型社会人大学院博士課程」をはじめ、優秀な大学院博士課程修了生の輩出を進めます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

入学試験出願者数前年比 105%

(2024 年度実績 出願者数前年比 84%)

2024 年度総志願者 / 2023 年度総志願者数 = 1,829 名 / 2,178 名)

【広報・地域連携・生涯研修・その他の事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ウ)

・大学ブランド力の強化

・スタッフの資質向上、ハラスメント防止、IT化推進、働き方改革のための定期的なSDの実施

(エ)

・情報発信ツールとしてのホームページの見直し
・インターネット、新聞、テレビ、ラジオ等あらゆる媒体を使った広報展開

(ク)

・米国、東南アジアの国々とオフライン、オンラインでの交流実現

地域連携事業においては「くすりと健康セミナー」「健康サポートセミナー」「メディカルカフェ」「パーキンソンカレッジ」など多彩なプログラムを展開し、地域社会への大学の貢献を強化します。また、東灘次世代医療人材育成コンソーシアム共催事業として7月開催予定の「健康サポートセミナー」を公開市民講座として実施します。

生涯研修においては、対面開催講座・e-learning講座ともに充実させ、最も大きなイベントである「卒後研修講座」はハイブリッド開催とすることで遠方者含む幅広い層へ訴求します。また、グループディスカッションを通じた「症例検討会」や「薬剤師実践塾」等の実習・実践・実技の講座を実施します。

国際交流においては、一昨年度より再開した海外薬学研修（アリゾナ研修）に加え、新たにカリフォルニア研修を実施することで交流を更に活発化させるとともに、米国以外の渡航プログラムについて検討します。

広報活動においては、2024年度にオープンした新教育棟（A棟）を素材とした広報活動を昨年度に引き続きWeb広告を中心に行います。また、あらゆる媒体を使った広報展開の一環として、2024年4月に開始した学生広報サポーターによる大学公式インスタグラムの充実及び2023年10月にスタートしたYouTubeによる情報発信プログラム「ききょうTV」の発展に取り組みます。

教職員の「SD研修会」も定期的実施し、教職員の資質向上、コンプライアンス遵守、ハラスメント防止、IT化推進、働き方改革に励みます。そして、今後も教員公募の際は、積極的な女性採用に努め、専任教員教授の女性比率の遵守に取り組めます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

専任教員教授の女性比率 25%以上

(2025年4月1日の専任教員教授の男女比 男：女 23人：11人 68%：32%)

以上